資料２－２

第35回 観光戦略実行推進会議

ベネッセアートサイト直島の取組みについて

2019年12月10日

公益財団法人 福武財団　事務局長
宇野　惠信

１.ベネッセアートサイト直島（BASN）について

＜ベネッセアートサイト直島とは＞

３組織が瀬戸内海の直島、犬島、豊島の３島などで行っているアート活動の総称

- **株式会社ベネッセホールディングス** （ベネッセハウス<ホテル>を所有）
- **株式会社直島文化村** （ベネッセの子会社、ベネッセハウスを運営）
- **公益財団法人福武財団** （地中美術館等の美術館を保有・運営、助成金の支給）

■主要施設

・ベネッセハウスミュージアム
・1992年
・建築：安藤忠雄

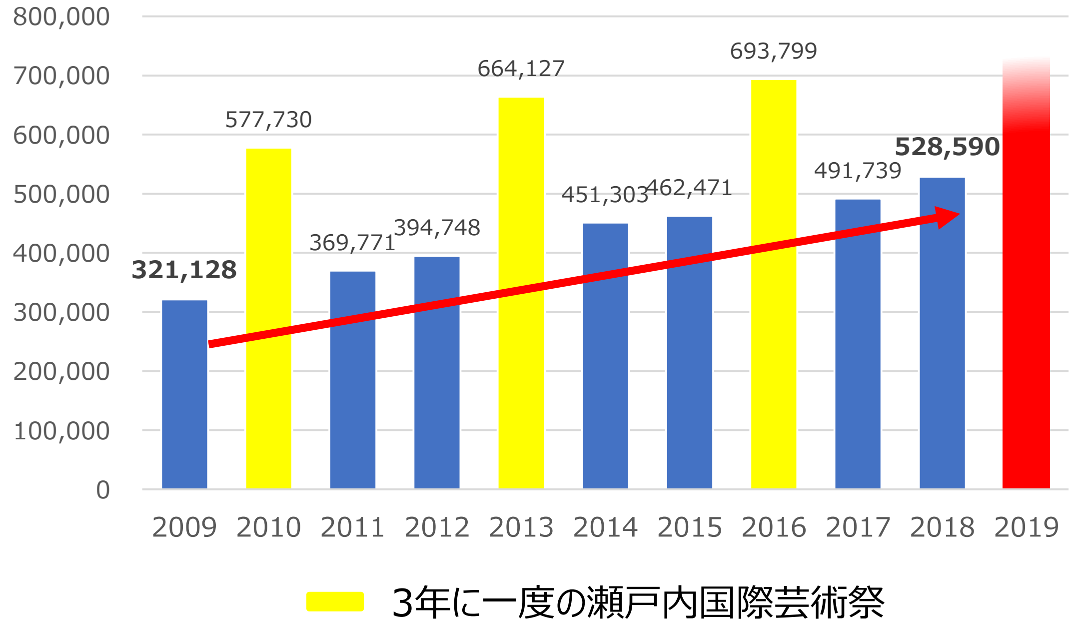
・地中美術館
・2004年
・建築：安藤忠雄

・豊島美術館
・2010年
・設計：西沢立衛

2.ベネッセアートサイト直島（BASN）の実績

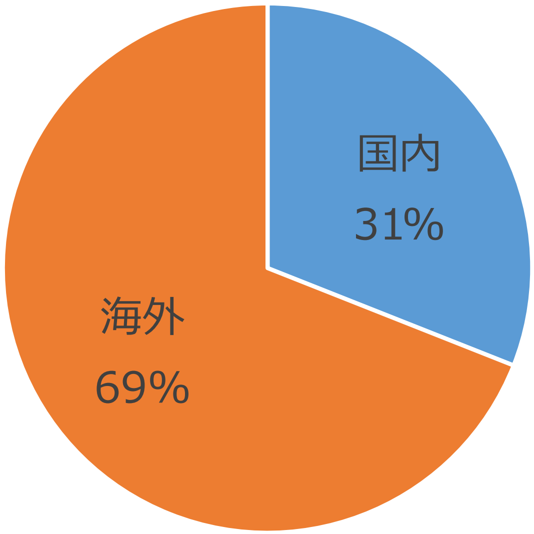
■直島町 歴史・文化目的の観光入込客数

（直島観光協会 公表数字より観光庁作成）



※2019年は速報値で約69.9万人（1~11月分）

■直島来島者（ベネッセハウス宿泊者）



<国籍別 上位 5か国>
1．アメリカ
2．オーストラリア
3．フランス
4．韓国
5．中国

３.ベネッセアートサイト直島（BASN）の活動

Benesse（＝よく生きる）を考え、体験する場所

Benesse が実現している場所

自然・景観（=瀬戸内海）

＋

アート・建築（=現代アート）

＋

歴史・暮らし（=島）

＋

人（=島民+ゲストの交流）

ひとびとが 「よく生きる（=Benesse）」ことを願い、
主に文化・芸術によって活力にあふれ、
個性豊かな地域社会の発展に貢献。

4.現代アートの３つの機能

Benesse（＝よく生きる）を考え、体験する場所

Benesse が実現している場所

自然・景観（=瀬戸内海）

＋

アート・建築（=現代アート）

＋

歴史・暮らし（=島）

＋

人（=島民+ゲストの交流）

現代アートの３つの機能

- **①現代社会に対するメッセージを発信する媒体**
- **②島の景観・生活・文化・歴史等を浮き彫りにするアイコン**
- **③島民とゲストをつなぐ媒介**

４.成果と提言①

〇直島では長い時間をかけて、瀬戸内の美しい自然景観の中に、地域の人と協力しながらアートや建築を作り、地域の魅力を顕在化・可視化してきた。

〇その結果、今でも島のお年寄りは来島者の方に、作品や島の暮らし・歴史を語り、自分たちの住んでいる島・地域に誇りを持ち、笑顔があふれるコミュニティになっている。

〇その笑顔に魅了され、繰り返し訪れる人が増え、その結果、宿泊施設・飲食施設などのインフラが充実しつつあり、ゲストと島民のさらなる交流が生まれ、人々が幸せに暮らすコミュニティが作られてきている。

〇こうした個性あふれる地域の集合体が、日本の本当の豊かさを支える。

⇒ 地域のアートプロジェクトが、地域住民や地方行政と共同して推し進める、個性豊かな地域づくりを国は後押しする仕組みを作るべき。

４.成果と提言②

〇Benesse（よく生きる）を体験する場所としての環境を維持し、主役である島民の生活維持が担保されるよう、インフラ（船便・島内交通・宿泊施設・飲食施設）の充実とクオリティの維持が必要。

〇それ以上は、来島者に対しては意識向上のための仕掛け（入島税など）が必要。

⇒ **地方行政はオーバーツーリズムに対して、先手先手で対策を講じるべき。**
国も地方行政の取組みに対して、ノウハウ・ルールつくりや財政面で支援すべき。